

Do for Others — 交流会に見る「明学力」

昨年11月、同窓生と現役学生とが年齢の垣根を取り払い交流を深める「現役学生・同窓生交流会」が開催された。
今回、さまざまなかたちで協力をいただいた文化団体連合会を代表して相田さん・高橋さんのお二人に参加いただき、交流会を振り返る座談会を行った。



相田慎一郎さん

(経済学科4年)
文化団体連合会
執行部委員長

高橋香央里さん

(芸術学科4年)
文化団体連合会
執行部会計担当

安田正克会長
明治学院大学同窓会

会長×現役生 座談会

安田 こんにちは。昨年11月の交流会では、文連会の学生さんにいろいろとお手伝いをしていただき本当にありがとうございました。今日は、交流会や大学同窓会について、皆さんの率直な感想や意見を聞かせてもらいたいと思います。まず、相田委員長から感想を聞かせてください。

相田 はい、自分のサークル以外のOB OGの方と関わる機会がなかなか無いので、交流会はとても新鮮でした。3年生はもちろんですが、2年生たちからも先輩方と話ができ、就活への興味が湧いたという話を聞き、交流会はとても有意義だったと感じました。

安田 高橋さんの印象はいかがでしたか。
高橋 私は、はじめ同窓会と聞いた時は、あまりイメージが浮かばなかったのですが、実際に参加してみたら幅広い世代のOB OGの方々と交流できて、明学大の縦の繋がりをすごく感じる事ができました。私も参加して良かったと思いました。

安田 今、相田さんから話がありましたが、就職はどことも大変なようですね。最近、親御さんが熱心で、